

いっぱい くわな

京ちゃんの妹のちーちゃんは、お姉さん思いの元気な小学2年生だ。話はちーちゃんと食事していた時から始まる。確か友達のことから桑名が話題になった。私が「いっぱい くわな」と言ったら、ちーちゃんがすぐさま笑ってくれた。私の寒いダジャレに笑ってくれるとは、想定外で？嬉しくなった。

あとから、ちーちゃんはどのようにして素早く反応したか考え込んだ。「一杯食う」という言葉は、うまく引かかるといった意味もあり、それを意識してのダジャレのつもり。ちーちゃんは、このダジャレの意味を理解して笑ったのだろうか。たぶん、ご飯を一杯食べなきゃいけないと思ったのではないだろうか。今度会ったら聞いてみよう。でも、聞いてよいのか、どのように聞けばよいか迷ってしまう。

この「いっぱい くわな」には思い出がある。今から10年ほど前、CBCで日曜朝に「ニュースな日曜日」という番組をやっていた。市町村合併が特集であり、スタジオでコメンテーター役を演ずることになった。1週間の出来事を振り返るコーナーがあり、桑名の合併を話題にした。桑名市・多度町・長島町が合併して「桑名市」が誕生したが、その「なれあい人事」について、合併の問題点を指摘した。このとき、住民は一杯食わされたと言ったと「いっぱい くわな」と言うつもりであったが、緊張のあまり言えなかった。そのことが今も尾を引いているのであろうか。

なお、この番組は私がスタジオ出演してから、まもなくして終了となった。もう一度くらい出たいと思っていたので残念であった。私のせいで番組終了になったのではないかと、今でも思い起こす番組だ。

桑名には「その手は桑名の焼き蛤」という故事もある。桑名は三重県の東に位置する城下町であり、歴史的にも名古屋と関係が深い。東海道53次で、熱田宮宿から桑名宿までは船旅だ。「七里の渡し」で有名である。桑名の名物は故事にも関係するが、はまぐりである。

写真は桑名の赤須賀にある「はまぐりプラザ」である。数年前に桑名名物「焼き蛤」を食べに出かけた。はまぐりをコンロで焼いて食べるのだが、じつに美味しかった。

写真下は店内に展示されていた漁場の地図だ。木曾三川の伊勢湾側に広がっている。長良川河口堰の影響で漁獲高が激減したが、漁業者たちの努力もあって回復してきた。ちーちゃんのおかげで、長良川河口堰のことまで思い出すことができた。ちーちゃんに感謝したい。長良川河口堰については、またレポートに書きたい。



(2015年6月4日)